 Web版 ISSN 2189-0803 DVD版 ISSN 2189-079X

19pBB-12

学問、教育とカネの問題

宇田英才教室
宇田雄一

How Research and Education are distorted by Money

wooder.pro.tok2.com
Yuichi Uda

世間では、政治とカネの問題という言葉で、賄賂で政治が歪められる問題が、論じられている。この言い方に倣って、今回私は、カネの都合で学問や教育が歪められる問題を論じる。裏口入学の問題を圏外とする物ではないが、裏口入学の話ではない。財力の大きい学習者が財力の小さい学習者よりも学習サポートを多く受ける事が出来る、という状況までは否定しないが、授業料に預かり保証金の役割を担わせる事には反対する、というのが、私のスタンスだ。預かり保証金とは、政治の選挙において、ひやかしでの出馬を防ぐために立候補者に課せられる一時的な負担金の事だ。現実の状況では、授業料が預かり保証金として働いており、また、その事が意図されている、と思う。今回の発表では、どうしてこう成るのか、原因の見当を付け、解決に役立てる事を目指す。授業料に預かり保証金の役割を担わせる政治的動機としては、結果を競争に委ねたくない、操縦の為のハンドルを残しておきたい、という意図の存在が、経済的動機としては、教育学習経済の経済全体に占める地位を低く抑えたい、という願望の存在が疑われる。そうではないと弁解する人は、名目上の理由として、就職選考において独学は学歴としては評価されないので、出馬(比喩)するには入学試験に合格して卒業単位を取得する必要が有り、その為には授業料を払う必要が有る、大学の授業料は一般に非常に高額だが、これは先生に研究業からの収入が無い為であり、出馬を抑制する目的でそう成っているのではない、という風に説明するだろう。しかし、それでは、先生に研究業からの収入が無い事や、独学が評価されない事には必然性は有るのか、と言うと、必然性は無く恣意的にそう成っているのだ、と私は思う。であれば、その点を改善する事によって、学問・教育とカネの関係を全般的に矯正できるのではないか。具体的方法として、学術にも特許制度相当の報奨制度を導入する事、教育学習経済の規模拡大(学校を卒業した後で職業先生に成るライフスタイルの普及)、学歴主義を廃し学力主義を徹底する事、の3つを私は提案する。入学試験の合格者定員数の存在は、先生の人数(供給できる教育の量)の限界と、学校が税で補助されている事に由来するはずだが、その基準(入学試験合格者定員数)を緩めても、なお供給できる教育の量が需要に比して足りないかは、疑問だ。先生に成るのは入学試験に合格して卒業した人だからだ。規模が大きく成れば、教育学習経済が徴税体質から納税体質に変化する事も、有り得る。